

農業者の支援（担い手育成、スマート農業、農畜産物消費・販売支援）

アナ： 「市長が語る 2022 三島」第6回の今日は、「農業者の支援」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 今年度は、農業者への支援として、「担い手育成」、「スマート農業」、「農畜産物の消費・販売支援」に取り組まれるとお聞きしています。新たな取り組みもあるようですが、それぞれどのような内容なのでしょうか。

市長： 担い手育成支援として、新たに農業を始める方へ支援をしております。

農業未経験の方が農業を始めるにあたり、静岡県が研修制度を設けており、実際の農作業を通して技術を身につけていただきます。

その後、就農当初は生産量や収入が少ないケースもありますので、

そのような課題を解決するため、農業を始めてから最長5年間は、継続して経営していくための計画づくりなど一定の条件を満たすことで、生活費などの補助を受けることができる制度を設けています。

なお、今年度から施設などへの設備投資に対する補助も新たに追加しました。

アナ： これまでに支援を受けた方はどれくらいいらっしゃるのですか。

市長： この事業は、平成25年度から実施しており、これまで10名の方が利用しています。

皆さん、農業とは異なる業種から転職された方で、農業経営を軌道に乗せるのは大変なことです。それぞれの努力とJAなどの関係者の方々からの支援の甲斐もあって、現在も10名の方全員が農業を続けていらっしゃいます。

作物はそれぞれですが、レタス、ブロッコリ、トマトなどの野菜やお米を作っています。

アナ： 2つ目のスマート農業とは、どのような事業でしょうか？

市長： スマート農業とは、ICTやデジタル機器などの最先端技術を導入して、効率的な農業を目指す取り組みです。

全国的に農家数が減少する中で、これまでと同じように農地を減らさずに規模拡大を図り、耕作していくためには、農作業の効率化が求められます。

最近では、害虫の被害を防止するためにドローンを使って上空から農薬をまいたり、ハウス内の温度や湿度などを自動的に調整する技術を導入したりする取り組みが始まっており、結果として、作業時間が従来の4分の1になるなど、作業効率の向上や収穫量の増加につながっています。

アナ： 効率化だけでなく収穫量の増加にもつながるのですね

市長： ビニールハウスなどの施設でトマトやミニトマトを生産する農家の方を対象とした、施設トマトの先進国であるオランダ出身の講師による

コンサルティング事業に対して支援しております。

従来の経験や勘を頼りとする生産方法ではなく、温度や湿度などの客観的なデータを活用し、自動で温度や湿度をコントロールする機器を導入したりすることで、昨年度はその前の年と比べて10%程度生産量が増加するなど、徐々に成果が表れております。

アナ： 続いて、農畜産物の消費・販売支援とはどのような内容でしょうか。

市長： 農畜産物の消費・販売支援とは、新型コロナウイルス感染症の影響により、取引価格が下落した農畜産物の消費を促進し、販売を支援する取り組みです。

飲食店の営業時間の短縮や冠婚葬祭等の催事の縮小により販売量が減少した牛肉、お茶のほか、取引相場が下落している野菜全般についても取り組みを進めていきます。

アナ： 具体的にはどのようなことを行うのでしょうか。

市長： まず、お茶につきましては、広く飲んでいただくきっかけづくりとして、全小学生を対象に試飲用のお茶を配布いたします。

次に、牛肉につきましては、箱根西麓牛というおいしい牛肉があるのですが、販売する店舗に限られ、手に取る機会、食べる機会が少ない状況がありますので、販売店など関係者の皆様のご協力をいただきながら、皆様に手に取って召し上がっていただける体制づくりを進めてまいります。

最後に、野菜につきましては、味を落としたり、食感を損なうことなく冷凍できる瞬間冷凍機器を導入し、豊作時に冷凍し、いつでもおいしく食べられる取り組みをJAさんと進めているところでございます。

アナ： 消費者にとってうれしい取り組みばかりですね。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。